

「メダカの学校」



岐阜分室長 大河内 八郎

「メダカの学校は川の中、そうーとのぞいて見てごらん皆でお遊戯しているよ！」と童謡で歌われているメダカの学校がある。子供達もみんなで・めだかクリーク（ピオトープ水路）に勉強がてら見学にきている。それも雄大な敷地の中でおにぎりを食べながら楽しみ、勉強している。



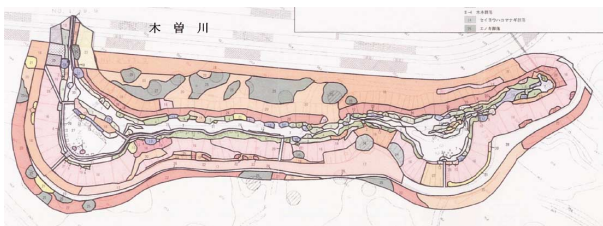
この地は、皆さんに嫌われる下水処理場である。この施設は、昭和48年に計画発表され紆余曲折しながら平成

3年4月供用を開始した岐阜県木曾川右岸流域下水道である。

この下水道は4市9町の51万人の汚水を処理し、木曾川や長良川の公共用水域の水質改善に寄与している施設で、14年度末の処理量は計画処理量の1/3程度で、放流水質もPHは6.6, BODは1.3, SSはND, CODは6.7, Nは7.6, Pは0.77と排水基準をらくらくクリアしている。また処理場一帯は公園や運動施設が整備され近隣の人々が年間5万人～6万人、施設見学や運動・キャンプ等に訪れ利用されている。

そこにメダカの学校がある。下水処理水を木曾川に放流する途中めだかクリークが作られ、水路延長300m、水路幅3～5m、ワンド2ヶ所を設けたクリークで、魚介類はメダカを始め3目5科13種、植物は58科228種、昆虫類も11目67科150種を確認している自然豊かな場所である。

生態個体数も施設完成の平成12年から14年の3年で倍に増加し今後期待されるめだかクリークである。クリーク周辺には高低木の河畔林が生育し、自然環境に恵まれた野鳥の生息場所にもなっている。子供達にとって自然とふれ会い、有意義に過ごせる



2003年4月撮影

場所にもなっている。

また地元の方々による地域の憩いの場、環境教育の場として活用の方策が検討され、何処でも下水道施設

は嫌われ者に成っているがここではこの公共施設を、地元の方々や、NPOの各種団体も協力しながら郷土づくりが進められている。

下水道事業は地球環境の保全、海洋汚染、公共用水域の保全と人々の快適な暮らしの維持のためにはなくてはならない施設である。自然環境の保全のために各地で建設されているがまだまだ下水道整備率は欧米に比べ低い水準にとどまっている。

今後下水道整備は人々の暮らしと環境保全のため皆様方の協力を得て進められていく。

中部の公共用水域の河川水質は全国的にも水質ランクは上位に位置し、毎年宮川はベスト2に入り、安倍川、豊川、揖斐川、鈴鹿川、櫛田川そして木曾川の順番で、木曾川は38番目/166河川（13年度）に位置している。ここ10年木曾川のBOD値は1以下の状態で推移しており良好な公共用水域のAAランク維持している。

しかしながら、富栄養化の原因である窒素やリンの増加傾向は進み、海洋汚染は進んでいる。ひと頃より伊勢湾の赤潮発生は少なくなっているものの、富栄養の汚染物質は増加している。今後さらに水質浄化技術の技術革新を進めていかないと、現在の浄化技術では家庭から排出される窒素、リンの除去率は低く、今後の技術開発が望まれるところである。公共用水域の水質改善には下水道整備率のアップと富栄養化の除去技術開発とそして地域に支えられる下水道施設の建設であろう。そうした中でこの「メダカの学校」を支える地域運動をより発展させ先駆的指導の範として進めていただきたいと思うものです。